

倫理審査委員会議事録 平成23年度第1回(平成23年4月26日)

受付番号1

課 題	六君子湯の瘻孔周囲皮膚炎に対する有効性の検討
申請者	薬剤師 山本 高範
研究概要	胃瘻から漏れを認める胃瘻増設患者に六君子湯を胃管チューブより投与し滋養PEGネットワークによる胃瘻評価スケールを用いて評価する
判 定	条件付承認 研究説明書に薬の薬効を誤解を招かないように丁寧に説明すること。分かり易い用語で説明すること。

受付番号2

課 題	重症心身障害者(児)におけるエネルギー必要量算出方法の有用性と問題点の検討
申請者	薬剤師 山本 高範
研究概要	重症心身障害者(児)に対して実際に必要なエネルギー量と頻用されているエネルギー必要量算出法により推定したエネルギー必要量との差を比較検討する。
判 定	承認

倫理審査委員会議事録 平成23年度第2回(平成23年6月22日)

受付番号3

課 題	健常成人における体重免荷歩行の皮膚温度変化と筋活動及び脳波の分析
申請者	理学療法士 渡辺 伸一
研究概要	神経学的、循環器、呼吸器、整形外科的障害のない健常成人男性10名に対して無作為に体重の20%の免荷量で体重免荷歩行訓練を行う群と全荷重歩行群の2つに分けてサーモグラフィで皮膚温の変化、筋電図にてH波、脳波計にて 波を分析する。
判 定	条件付承認 研究説明書に「倫理委員会で承認を得る」旨を追記すること。 「患者様」と言う表記は「被験者」に修正すること。

受付番号4

課 題	口腔内乾燥・汚染がある患者にアロマオイルを用いた唾液腺マッサージを試みて
申請者	看護師 小藤 絵理
研究概要	口腔内乾燥の強い対象患者(男性2名、女性1名)に、1日3回唾液腺マッサージを1ヶ月行う。さらに1ヶ月唾液腺マッサージにアロマオイルを用いた手技で唾液分泌量の測定を行い、唾液分泌量と口腔内汚染状況の賦各調査をする。
判 定	条件付承認 同意書を詳しくすること。 説明書に「パッチテストを実施し、安全性を確認しております」を明記すること。オイルの身体への作用についても説明に加えること。

受付番号5

課 題	結核病棟の面会者がもつ不安要因を探る - 家族指導の見直しを行うため -
申請者	看護師 千田 亜矢子
研究概要	当院結核病棟に来られた初回面会者に、病棟に入る前に質問書を渡し、面会終了時に記入してもらい回収時にインタビューを行い記入内容の確認を行う。
判 定	承認

受付番号7 6は取り下げのため欠

課 題	重症心身障害(児)者への自然排便の取組 - 腹部マッサージと肛門部への温水刺激を試みて -
申請者	看護師 小林 綾子
研究概要	便秘にて緩下剤を使用している重症心身障害(児)者7名に腹部マッサージと温水便座を利用して肛門部への温水刺激を実施し、実施前と実施中の自然排便の有無、緩下剤の使用頻度を比較検討する。
判 定	条件付承認 研究説明書に「倫理委員会で承認を得てる」「苦痛とを感じる場合は実施しない」旨を追記すること。

受付番号8

課 題	否定的な言葉が聞かれる神経筋難病患者の思いを分析する - 音楽療法を用いた患者の面接から -
申請者	看護師 北山 礼子
研究概要	神経難病患者(女性1名)に事前に本人が好む8曲(30分程度)を選曲し、平日16時病室で音楽を流したあと退室し、30分後に訪室。半構成的面接を30分間行う。その際には本人に同意を得て録音を行う。その後唾液アミラーゼ値を測定し、ツングうつ自己評価度を判定する。また、逐語録を作成しカテゴリー別に分類し分析を行う。
判 定	承認

受付番号9

課 題	筋緊張を持つ重症心身障害者における腹臥位の効果 - 筋緊張緩和効果を唾液アミラーゼ値から検証して -
申請者	看護師 芝山 和則
研究概要	筋緊張が認められる患者に対する対策として、適切な姿勢保持が有効とされている。このことから腹臥位のポジショニングによる緊張緩和に対してどのような効果が得られるか患者の唾液アミラーゼ値、脈拍、SPO ₂ 、呼吸数を測定し検証する。
判 定	条件付承認 研究計画書を添付すること。 説明書に「倫理委員会で承認を得ること」「職員の見守りの中でしっかり実施すること」「腹臥位を長時間続けることの十分な説明」「患者から苦痛の様子がある場合は直ちに中止すること」の旨を追記すること。

受付番号10

課 題	人工呼吸器装着患者の後頭部褥瘡と圧迫力およびずれ力について検討
申請者	看護師 橋爪 佐由美
研究概要	人工呼吸器装着患者12名(後頭部褥瘡既往歴有り4名、既往歴無し8名)に対して、ギャジアップ頭部30度、下肢5度として直前からギャジアップ60分後までの圧迫力、ずれ力を5回測定し平均値を用いる。また同時に体圧分散力を測定し褥瘡への関係を分析する。
判 定	条件付承認 研究計画書を添付すること。

受付番号11

課 題	口腔ケア後の口腔内状態に影響する因子の検討
申請者	作業療法士 佐藤 ことみ
研究概要	1日1食の経口摂取、経管栄養(経腸・経鼻)、静脈栄養、人工呼吸器装着患者各3名で整容動作は全介助レベルの患者に対して、介入前、介入後の2時間後、4時間後、6時間後、就寝前、起床後に舌背より綿棒にて採取し細菌培養を行う。同時に口腔清掃度、唾液湿潤度、舌苔、口臭の評価を行う。また、口腔ケアはデンタルリンスGUMでの洗口(スポンジブラシ、ハイゼガーゼ使用)、唾液腺マッサージ、有歯者には歯ブラシでのブラッシングを1日3回行いその因子を検討する。
判 定	条件付承認 研究計画書に研究発表予定を記載のこと。

倫理審査委員会議事録 平成22年度第1回(平成22年6月4日)

受付番号1

課 題	体重免除歩行が運動器不安症患者の運動耐容能及び歩行速度に与える影響
申請者	理学療法士 渡辺 伸一
研究概要	運動器不安定症患者20~30名に対し、従来の運動療法(トレッドミル歩行)と体重免除トレッドミル歩行の二つの群に分け、頻度は週2~3回、期間は6週間、時間は20分の歩行訓練を施行する。効果判定には10m歩行試験と6分間歩行試験及び質問表にて行う。
判 定	条件付承認 心疾患対象患者について主治医から承諾を取る。申請書に責任者名の記載。研究説明書のSF-36、JOAスコアを分かり易い表現に訂正。

受付番号2

課 題	パーキンソン病高齢者の主体的リズム形成を用いた嚥下機能介入の効果
申請者	看護師 田本 奈津恵
研究概要	65歳以上のパーキンソン病で経口摂取している入院患者で症状が安定しており認知症を併発していない者を対象とし、週5日の4週間3度の食事前後にメロノームを用いた音リズム形成による口腔ケア及び嚥下体操を60セット行い看護介入の効果を明らかにする
判 定	条件付承認 病院様式の同意書の添付

受付番号3

課 題	筋緊張を持つ重症心身障害者における腹臥位の効果を客観的に評価する
申請者	看護師 芝山 和則
研究概要	筋緊張が認められる患者に対する対策として、適切な姿勢保持が有効とされている。このことから腹臥位のポジショニングによる緊張緩和に対してどのような効果が得られるか患者の唾液アミラーゼ値、脈拍、SPO ₂ 、呼吸数を測定し検証する。
判 定	条件付承認 症例の増、評価方法の再検討

受付番号4

課 題	食欲の強い胃瘻増設患者にミキサー食の注入を試みて
申請者	看護師 村田 幹子
研究概要	神経難病患者で食欲の強い胃瘻増設患者に胃瘻からミキサー食を注入することにより満足感を得られるかを検証する
判 定	承認

受付番号5

課 題	口腔内の環境を改善するための一考察(パイナップル果汁を使用して)
申請者	看護師 山本 吏
研究概要	経管栄養患者には経管栄養開始前日に3回口腔清拭を水道水で行っているが、舌苔などの口腔内の付着物のタンパク質は十分に拭き取れない。このためタンパク質分解酵素が含まれているパイナップル果汁を用いて口腔清拭を行うことにより口腔内環境の改善につながるか検討する。
判 定	承認

受付番号6

課 題	認知症患者に対するスヌーズレンを試みて
申請者	看護師 京堂 美佳
研究概要	認知症高齢者のケアは、リラクゼーションに始まりリラクゼーションに終わると言われている。そこで日頃ベッド上で過ごすことの多い認知症患者に食堂で過ごすこととスヌーズレンを実施し過ごすことを比較し、スヌーズレンがリラクゼーションに効果があるか検討する。
判 定	承認

受付番号7

課 題	楽しみのための食事を目指して(胃瘻患者への摂食嚥下障害に対するアプローチ)
申請者	作業療法士 佐藤 ことみ
研究概要	食べることは人の心の栄養でもあるが、胃瘻造設患者はそれを制限されている。文献によれば胃瘻患者の10%程度は脱胃瘻が可能であり、胃瘻と経口摂取を出来る患者は更に多いとされている。そこで医師、看護師、作業療法士によるチーム医療をもとに総合的な評価を行い口腔ケアによる口腔内保湿と知覚の活性化、嚥下機能向上、誤嚥性肺炎予防のリハビリを実施し、対象者が食べる楽しみを得られるように検討する。
判 定	条件付承認 誤嚥性肺炎の危険性を家族に伝え、承諾を得ること。

倫理審査委員会議事録 平成21年度第1回(平成21年5月29日)

受付番号1

課 題	結核に対する看護師の認識度調査
申請者	看護師 梅木 里美
研究概要	保健師・看護師の結核罹患率は一般女性に比べ4.3倍と言われており、感染防止対策のためにも正しい知識が必要である。しかし、結核病棟に配置換となった際、マスクの装着方法やDOTSに関する質問があるなど結核に関する認識が低い現状である。このため今後のオリエンテーションの方法や院内研修内容の再検討を行うため当院の看護師に結核の基本的な認識度調査を行う。
判 定	承認

受付番号2

課 題	認知症高齢患者の潜在能力を引き出す関わり～食べることへの関わり～
申請者	看護師 蔵田 亜矢
研究概要	認知症高齢患者は、入院による行動制限や環境の変化により機能低下を来しやすい。潜在能力を引き出す関わりがQOLの観点からも重要である。その中でも食べることへの関わりは食べる楽しみを取り戻す意味からも必要であると考え。そこで誤嚥性肺炎を繰り返すためIVH施行中の認知症患者に潜在能力を引き出し食べることが出来るよう積極的関わり、その関わりを観察し分析する。
判 定	条件付承認 説明文書の添付

受付番号3

課 題	胃瘻スキントラブル症例への対応～ウレタンフォームを使用して～
申請者	看護師 橘 千夏子
研究概要	胃瘻カテーテルの外部バンパーと腹壁の間にウレタンフォームを入れ、胃瘻カテーテルを腹壁に垂直に保持し圧迫を解除することでスキントラブルが改善するか検証する
判 定	条件付承認 申請書記載不備

受付番号4

課 題	重症心身障害者 氏の生活リズムの中から発声と指しゃぶりの原因を分析する
申請者	看護師 原島 顕子
研究概要	氏の発声と指しゃぶりの要因を分析する。生活リズムを1日のタイムスケジュールで分析し、今後、日常生活を見直すことで発声・指しゃぶりの減少につなげる。
判 定	条件付承認 説明文書添付、同意書の不備(病院名を記載)、同意撤回書の添付

受付番号5

課 題	長期臥床の経腸栄養患者のエネルギー投与量における基礎代謝測定の有用性について
申請者	看護師 坂下 優美
研究概要	1年間で7kg体重が増加した経腸栄養患者がいたため、長期臥床患者の適正体重、適正エネルギー量についての基準を作成するため基礎代謝を測定し適正エネルギー投与量を検討する。
判 定	承認